

事項	アカクローバの奨励品種「ナツユウ」の特性		
ねらい	アカクローバの奨励品種である「ホクセキ」が増殖中止となることから、これに代わる品種を選定するため、流通品種について生育特性を調査した結果、「ナツユウ」が混播適性及び永続性に優れることを明らかにとしたので、奨励品種として普及に移す。		
普及する内容	<p>1 来歴 北海道農業試験場（現、（独）農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター）及び北海道立根釧農業試験場（（地独）北海道立総合研究機構農業研究本部根釧農業試験場）で育成された4母系の多交配による品種である。</p> <p>2 特性の概要（標準品種「ホクセキ」との対比）</p> <p>（1）発芽の良否はやや劣る。 （2）越冬性は同程度である。 （3）開花程度は着花出現程度が低いことから小さい。 （4）混播草との競合力は、冠部被度がホクセキと同程度か下回って推移し、草丈も低いことから弱い。 （5）永続性は利用3年目晩秋における個体密度が高いことから優れる。 （6）混播草の乾物収量は3か年平均で1,043kg/10aと8%下回る。 （7）マメ科率は同程度である。</p>		
期待される効果	粗飼料の安定生産に資する。		
普及上の注意事項	混播草のイネ科牧草はオーチャードグラスは晩生品種、チモシーは極早生及び早生品種とし、播種量は0.3kg/10aとする。		
問い合わせ先（電話番号）	畜産研究所 酪農飼料環境部（0175-64-2791）	対象地域	県下全域
発表文献等			

【根拠となった主要な試験結果】

表 1 生育特性 (平成17～20年 青森畜産研)

品種名	発芽の良否	越冬性 3か年平均	着花茎出現程度 3か年平均			個体密度 (株数/㎡) 平成20年
	平成17年		1番草	2番草	3番草	
ナツユウ	5.8	5.2	1.0	3.3	2.5	20.0
ホクセキ (標)	6.8	5.2	1.0	3.9	4.0	14.2

(注) 1 発芽の良否及び越冬性は極不良1～極良9、着花茎出現程度は極少1～極多9とする評点法

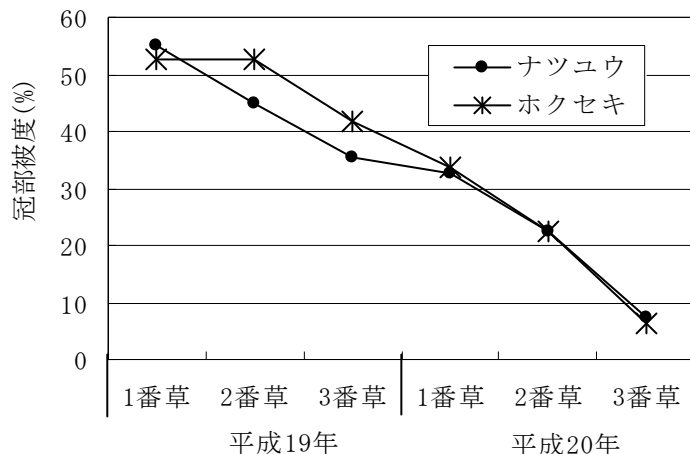


図 1 刈取時におけるアカクロバの冠部被度

表 2 草丈 (cm) (平成18～20年 青森畜産研)

品種名	平成18年		平成19年		平成20年		平均	
	RC	OG	RC	OG	RC	OG	RC	OG
ナツユウ	46	76	60	86	54	84	53	82
ホクセキ (標)	52	79	67	88	55	88	58	85

(注) 1 RC : アカクロバ、OG : オーチャードグラス

2 1～3番草の平均値

表 3 総乾物収量及びマメ科率 (kg/10 a、%) (平成18～20年 青森畜産研)

品種名	平成18年	平成19年	平成20年	平均	平成18年	平成19年	平成20年
	ナツユウ	1,004 (90)	1,084 (88)	1,042 (98)	1,043 (92)	15	35
ホクセキ (標)	1,114	1,228	1,061	1,134	16	34	6

(注) 1 () 内は標準品種を100としたときの指数

2 平成18年のマメ科率は生草における値

耕種概要

- 試験場所 畜産研究所内圃場
- 播種期、播種様式、播種量
平成17年9月9日、散・混播、アカクロバ 0.3kg/10a、オーチャードグラス 2.0kg/10a
- 刈取期 1番草 オーチャードグラスの出穂期
再生草 オーチャードグラスの草丈が70～80cmに達した時点
- 施肥量
造成時 土壌改良資材 炭カル：pH6.5矯正量(改良深度15cm)、ようりん：P₂O₅で25kg/10a
基肥 N-P₂O₅-K₂O＝各5kg/10a
利用年 (N-P₂O₅-K₂O、kg/10a)

年次	早春	1番草後	2番草後
利用1年目	6.0-4.0-4.0	4.5-3.0-3.0	3.0-2.0-2.0
利用2年目以降	9.0-6.0-6.0	6.0-4.0-4.0	3.0-2.0-2.0